

日本古典文学で時空を超える

五七五・七七の世界 2023

文化フォーラムは、人間文化学科の行事として地域の方々の熱心な参加と好評を受けて10年以上実施してきましたが、2021年度からは備後圏域経済・文化研究センターの行事として新たに出発しました。備後文化の特徴を、地域の皆さま、学生とともに多角的に解明していきます。2023年度は、2021年度にコロナ禍で中止した内容をもとに実施します。短歌を主軸に、人間文化学科の日本文学・アメリカ文学の教員に、日本史、連歌の外部講師を加えて4回の講座を開講します。連歌の実践もあります。なお、関連行事として、12月23日(土)には、本学附属図書館所蔵の戦国時代の連歌資料を紹介します。

入場
無料

第1回

和歌と地域 その2

日時 12月16日(土) 14:00~16:00 場所 社会連携推進センター 301 (福山駅北口すぐ)

講師 福山大学 教授 竹村信治氏 (日本中世文学)



吉備国から697年(文武天皇元年)ころまでに分出された備後国。各所の地名は、風土記、万葉集をはじめ、和歌、歌謡、歌論、軍記、女流日記、紀行、説話などに散見されます。近世の幕藩体制の中で分断される以前の備後の歴史的景観を、古典作品を通じて瞥見します。

第2回

連歌興行実践 —一句が繋がっていく魅力—

日時 12月24日(日) 14:00~16:00 場所 社会連携推進センター 301 (福山駅北口すぐ)

講師 福岡県立北筑高校 教諭・連歌研究者 黒岩淳氏



数人が集まり、五七五の長句と七七の短句を交互につなげていく連歌。中世に盛んに行われ、近年各地で復興しつつあります。連歌はどのようにして句が付けられていくのか、実際に体験してもらいながら、その面白さ、その魅力に迫っていききたいと思います。

第3回

中世の福山の文学的背景 —戦国時代の福山と足利義昭周辺—

日時 1月13日(土) 14:00~16:00 場所 社会連携推進センター 301 (福山駅北口すぐ)

講師 備陽史探訪の会 会長 田口義之氏



福山を含む備後地方は境目の国の中でも室町幕府が重視した地域で、有力国人領主は奉公衆として在京し、東山文化の担い手となった。足利義昭の「鞆動座」はこうした文化的政治的背景の上で行なわれたことで、彼の来住はこの地方に新たな文化的刺激を与えた。

第4回

英語で読む和歌と俳句

日時 1月20日(土) 14:00~16:00 場所 社会連携推進センター 301 (福山駅北口すぐ)

講師 福山大学 教授 重迫隆司 (アメリカ文学)



日本文学を代表する和歌と俳句は、実はかなり英語に訳されています。掛詞や余韻、5-7-5-7-7のリズムは、翻訳可能なのでしょうか。英語で読んで初めてわかる古語や背後の気持ち等、楽しく鑑賞してみたいと思います。

